

令和6年度

全国学力・学習状況調査結果の分析と検証

音更町の学力の傾向と改善のポイント

音 更 町 教 育 委 員 会

I 調査・研究の目的と方法等

I 調査・研究の目的と方法等

1 調査・研究の目的

本調査・研究は、本町における児童生徒の学力・学習状況を把握、分析し、学習指導の改善や学習意欲の向上に資する基礎資料を提示することを目的とする。

2 調査・研究の方法

- (1) 本町の小・中学校の調査結果について、「令和6年度 全国学力・学習状況調査 調査結果のポイントについて ～北海道（公立）における調査結果～」(北海道教育委員会)を参考に分析・考察した。
- (2) 国語、算数・数学の設問別調査については「傾向」「正答率の高かった問題」「正答率の低かった問題」「無回答率の高かった問題」「改善のポイント」を掲載した。また、質問紙調査については、音更町教育推進の重点に沿い、授業改革や今後の指導等に資する設問を抜粋、分析を行った。

3 調査・研究の内容

- (1) 全国学力・学習状況調査 調査結果の概要(音更町の傾向の把握)
 - (2) 全国学力・学習状況調査結果分析①
全国を100として正答率が全国値と比べて「最も高かった問題」「最も低かった問題」
 - (3) 全国学力・学習状況調査結果分析②
主に無回答率の数値が全国値と比べて、「特に高かった問題」
 - (4) 質問紙の分析
 - ① 家庭学習等の時間
 - ② 算数・数学の授業内容が分かるか
 - ③ 課題解決に向けた主体的取組
 - ④ 話し合い活動による思考の深化
 - ⑤ 将来の夢や目標
 - ⑥ 自尊感情
 - ⑦ いじめに対する認識
- ※平成28年度から経年比較が可能な設問を選択し直し、経年比較を行なっている。

(5) 調査日

令和6年4月18日(木)

(6) 調査を実施した児童生徒数

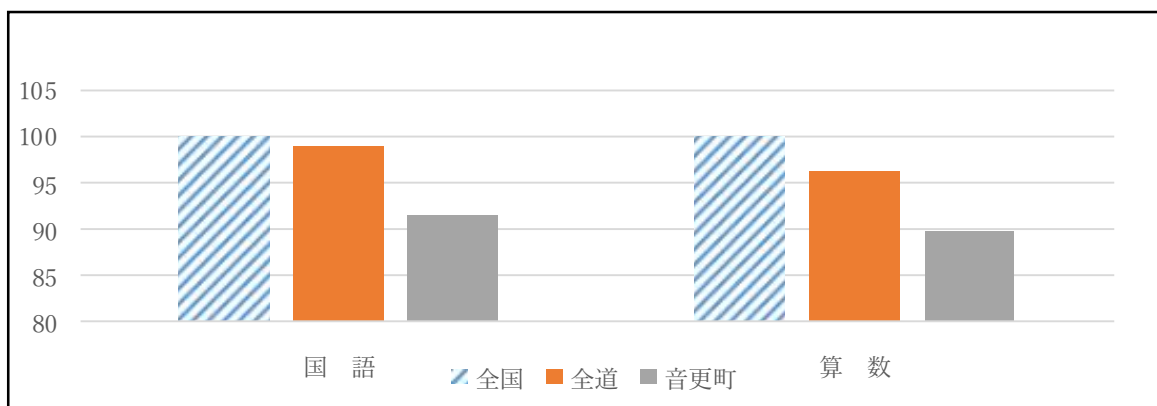
	全 国	北海道	音更町
小学校	947,579人	34,531人	380人
中学校	875,952人	33,614人	377人

※ 児童生徒数・質問紙の分析は、全国学力・学習状況調査報告書(文部科学省 国立教育政策研究所)及び北海道版調査報告書(北海道教育委員会)を資料として引用した。

Ⅱ 学力調査結果の概要

小学校

※ 全国を100として比較



<総評>

国語も算数も全国・全道の平均正答率を下回る結果になった。国語は全国比91.6%、算数は全国比89.9%である。

<学習指導要領の内容・領域、問題形式>

国語は、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の全てが全国比100%以下であった。また、全国比と開きが大きかった学習指導要領の内容は、①「知識及び技能」の「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」(全国比88.4%)、②「思考力、判断力、表現力等」の「C読むこと」(全国比91.5%)、③「思考力、判断力、表現力等」の「B書くこと」(全国比91.8%)となっている。

③の「B書くこと」に関しては、全国比は依然低めであるが、昨年度より23.7ポイント上昇と、大幅な改善が見られている。問題形式別では、短答式の平均正答率が全国比82.4%と昨年度より9.4ポイント下がった。記述式は全国比88.1%と昨年度より1.3ポイントの改善が見られた。全国比較が最も低かった問題は「2三ア 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」問題のうち、「【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す」(きょうぎ=競技)の設問で、全国比61.3%であった。全国比が最も高かった問題は「1三 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる」問題で、全国比98.9%であった。また、無回答率(全国比)が最も高かった問題は、「2二目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題で、全国比157.1%であった。

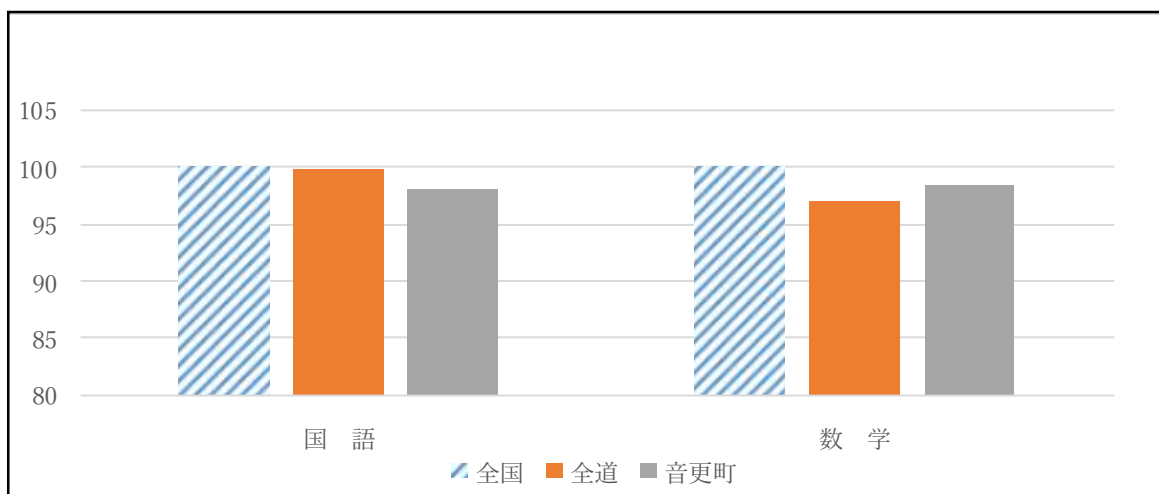
算数は、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の全てが全国比100%以下であった。また、全国比と開きが大きかった学習指導要領の領域では、「C変化と関係」(全国比85.5%)、次いで「A数と計算」(全国比89.2%)となっている。全国比が最も低かった問題は「4(3)道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」問題で全国比70.3%であった。全国比が最も高かった問題は「3(1)直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる」問題で全国比99.4%であった。また、無回答率(全国比)が最も高かった問題は、「3(3)球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係をつかえ、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる」問題で、全国比148.0%であった。

<その他>

今年度もすべて全国平均を下回っているが、学習指導要領の内容の平均正答率の状況を見ると、全国平均と同様に昨年度大きく落ち込んでいた国語「B書くこと」が、全国平均同様に改善の兆しが見られる結果となった。

中学校

※ 全国を 100 として比較



< 総 評 >

国語は全道・全国平均を若干下回る結果となった。国語は全国比 98.1%であった。数学は全国比 99.0%で、全道とほぼ同程度（高）、全国と同程度であった。

< 学習指導要領の内容・領域、問題形式 >

国語は、全国と開きが見られた学習指導要領の内容は、「知識及び技能」における「(3)我が国の言語文化に関する事項」(全国比 95.8%)、「思考力、判断力、表現力等」における「A 話すこと・聞くこと」(全国比 95.9%)、「B 書くこと」(全国比 96.6%)であった。「C 読むこと」は(全国比 98.1%)となっている。問題形式別では、選択式・短答式は全国と同程度に対し、記述式は(全国比 91.2%)と開きが見られた。

全国比が最も高かった問題は、「2 一 文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる」問題で、全国比 105.2%であった。全国比が最も低かった問題は、「2 四 目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる」問題で、全国比 86.6%であった。また、無回答率(全国比)が最も高かった問題は、「4 一 表現の技法について理解しているかどうかをみる」問題で、全国比 178.0%であった。

数学は、学習指導要領の領域に注目すると「B 図形」が全国比 102.4%、「C 関数」が全国比 101.8%で全国平均を僅かながら上回っている。一方で「D データの活用」では全国比 91.5%と全国平均を大きく下回っている。

全国比が最も高かった問題は「9(2)事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる」問題で、全国比 116.5%であった。全国比が最も低かった問題は「7(3)複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる」問題で全国比 75.7%であった。また、無回答率(全国比)が最も高かった問題は、「8(3)複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる」問題で無回答率全国比 134.2%であった。

Ⅲ 学力調査結果の分析①

全国を 100 としてみたときに
正答率の全国比が最も高かった問題と最も低かった問題

小学校国語

○ 正答率の全国比が最も高かった問題（全国を100としてみたとき）

三 和田さんは、「オンライン交流の様子の一部」をふり返り、発言⑮のところ、**「和田さんのメモ」**が役に立ったことに改めて気づきました。その説明として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 相手の学校の「地いきならではの取り組み」に関する情報を整理していたことで、事実と感想とを区別して伝えることができた。
- 2 相手の学校の「地いきならではの取り組み」に関する情報を整理していたことで、複数の情報をまとめて伝えることができた。
- 3 自分の学校の「地いきならではの取り組み」に関する情報を整理していたことで、事実と感想とを区別して伝えることができた。
- 4 自分の学校の「地いきならではの取り組み」に関する情報を整理していたことで、複数の情報をまとめて伝えることができた。

問題1 三 正答率全国比 98.9%（音更町正答率 63.1%・全国正答率 63.8%）

「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる」問題

小学校国語

- 正答率の全国比が最も低かった問題（全国を 100 としてみたとき）

ア きょうぎの作戦を考えたりします。

上級生が遠くからボールを イなげる

三 高山さんは、「高山さんの文章」を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた——部ア、イを漢字でていねいに書きましょう。

問題 2 三ア 正答率全国比 61.3%（音更町正答率 26.6%・全国正答率 43.4%）

「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」（きょうぎ=競技）問題

小学校算数

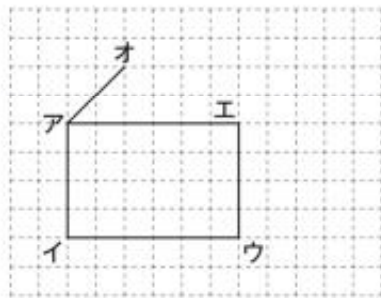
○正答率の全国比が最も高かった問題（全国を 100 としてみたとき）

3

ことねさんたちは、いろいろな立体について学習してきたことをふり返っています。

(1) 直方体の見取図を、方眼紙にかいています。

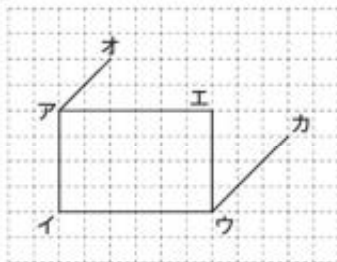
まず、下のように点アから点オまでを直方体の頂点として、かきました。



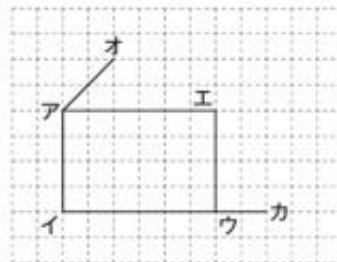
次に、下の 1 から 4 のように、点カ的位置を決めて、直方体の辺ウカをかこうとしています。辺ウカとして正しいものはどれですか。

下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

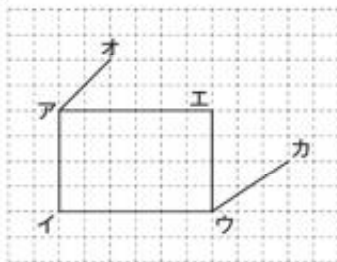
1



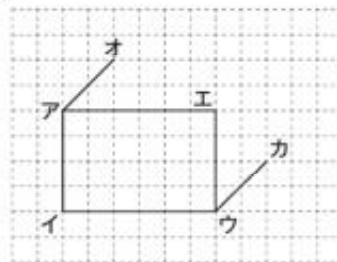
2



3



4



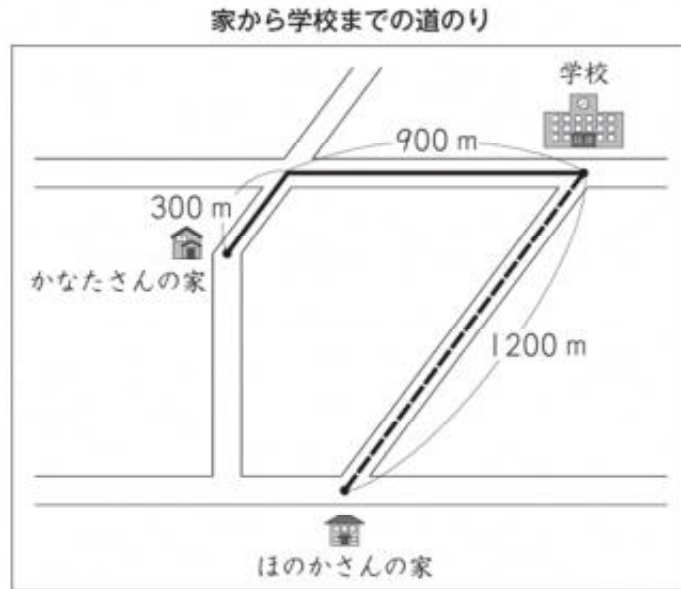
問題 3(1) 正答率全国比 99.4% (音更町正答率 85.0%・全国正答率 85.5%)

「直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる」問題

小学校算数

●正答率の全国比が最も低かった問題（全国を 100 としてみたとき）

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは 20 分間、ほのかさんは 24 分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の **1** と **2** から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1 かなたさん

2 ほのかさん

問題4 (3) 正答率全国比 70.3% (音更町正答率 21.8%・全国正答率 31.0%)

「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」問題

中学校国語

○正答率の全国比が最も高かった問題(全国を100としてみたとき)

- 一 「図 さまざまな形の葉」の本文中での役割を説明したものとして適切なものを、次の1から4までの中から二つ選びなさい。
- 1 実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるように補助する役割。
 - 2 実際の葉の形とそれを表す言葉とを結び付けて捉えられるようにする役割。
 - 3 葉の形を表す言葉を二つのグループに分けるやり方が複数あることを示す役割。
 - 4 葉の形を表す言葉の中では厚み方向の形容が限定的であることの根拠を示す役割。

問題 2 一 正答率全国比 105.2% (音更町正答率 38.2%、全国正答率 36.3%)

「文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる」問題

中学校国語

●正答率の全国比が最も低かった問題(全国を100としてみたとき)

四 本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約します。次のア、イから一つ選んで(どちらを選んでもかまいません)要約しなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

ア 筆者が、葉の形を表す言葉をどのようなグループに分け、各グループにどのような特徴があると述べているかについて。

イ 筆者が、数学や物理学などと生物学とでは、学問としてどのような違いがあると述べているかについて。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

一選んだ(着目する内容)を塗りつぶしなさい。

(着目する内容)

○ ○

--	--	--	--

問題 2 四 正答率全国比 86.6% (音更町正答率 36.9%、全国正答率 42.6%)

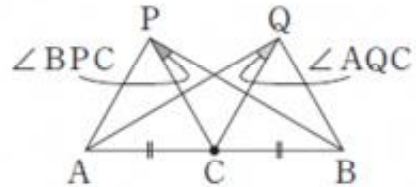
「目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる」問題

中学校数学

○正答率の全国比が最も高かった問題

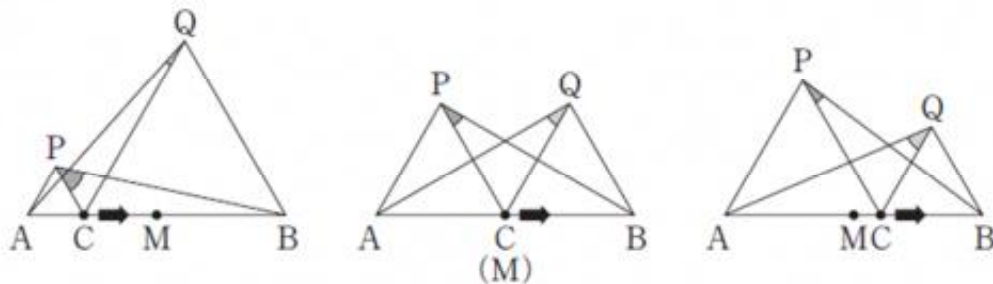
9

(2) 健太さんは、線分ABの中点に点Cをとった場合に $\angle AQC$ と $\angle BPC$ が等しく見えたことから、他の場合にはどうなるか気になりました。



そこで、次の図3のように、線分ABの中点をMとして、点Aから点Bの方向へ点Cを動かした場合に $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさがどうなるかを調べ、下のようにまとめました。

図3



調べたこと

- 点Cが点Aから点Bに近づくとつれて、 $\angle AQC$ は大きくなり、 $\angle BPC$ は小さくなる。
- 点Cが線分ABの中点のとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ は等しく、どちらも 30° である。

問題9 (2)正答率全国比 116.5% (音更町正答率 31.1%、全国正答率 26.7%)

「事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる」問題

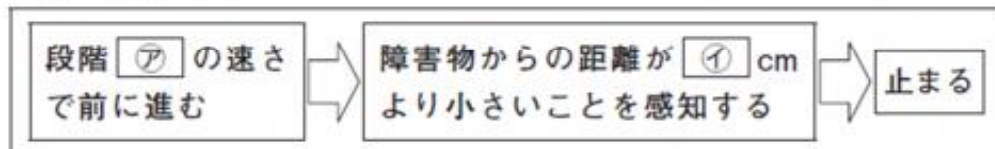
中学校数学

○正答率の全国比が最も低かった問題

7

(3) 二人は、次のプログラムを見て、話し合っています。

プログラム



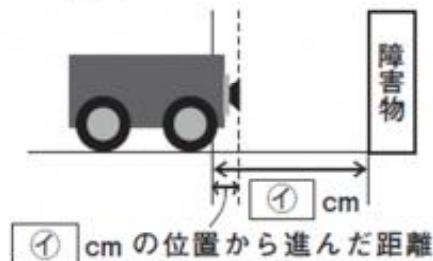
海斗さん「速さを段階1にして、距離を変えると、設定した位置から進んだ距離はどうかかな。」

咲希さん「設定した位置から進んだ距離の分布の傾向が変わるかもしれないよ。」

海斗さん「距離 [イ] の値を10より大きくしてみよう。」

海斗さんは、速さの段階を1に設定して、障害物からの距離 [イ] cm の設定を変えたとき、次の図3の [イ] cm の位置から進んだ距離がどうか調べることにしました。そこで、[イ] の設定をすでに調べた10 cmのほか、新たに100 cm、200 cmにして、それぞれ20回ずつ調べてデータを集めました。そして、データの分布の傾向を比較するために、箱ひげ図に表しました。

図3



問題7 (3) 正答率全国比 75.7% (音更町正答率 36.7%、全国正答率 48.5%)

「複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる」
問題

IV 学力調査結果の分析②

主に無回答率が全国比 100 を上回り，無回答率の数値が特に高い問題

小学校国語

●無回答率が全国比 100 を上回り、無回答率が特に高い問題

【高山さんの文章】

みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生にたてわりの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、アキョウギの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょにたてわりして熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをイナげるようにしています。

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について

6年生がくふうしていること

- 遊びたいことを下級生に聞く
- ルールをくふうする

ドッジボール 上級生は遠くからボールをなげる

下級生に聞いたこと

- 1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
- 3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
- 4年生 みんなが楽しそうでうれしかった

二 高山さんは、次の「高山さんの文章」の
考えた「たてわり遊び」のよさを書こうとしています。あなたが高山さんなら、
内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましよう。
に、「高山さんの取材メモ」をもとにして
に入る

次ページへ続く

〈条件〉

- 「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。
- 「高山さんの取材メモ」の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

◆									

※上の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。
解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

問題2 二 無回答率 全国比 157.1% (音更町無回答率 7.7%・全国無回答率 4.9%)

「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題

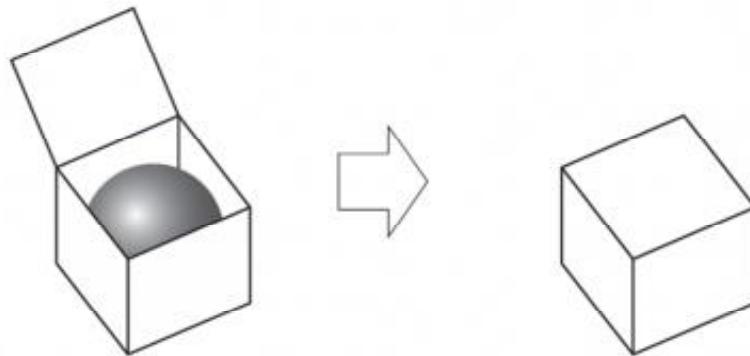
小学校算数

●無回答率が全国比 100 を上回り、無回答率が特に高い問題

(3) 直径 22 cm の球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何 cm^3 かを求める式を書きましょう。
ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

問題 3 (3) 無回答率全国比 148.0% (音更町無回答率 14.5%・全国無回答率 9.8%)
「球の直径の長さとは立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる」問題

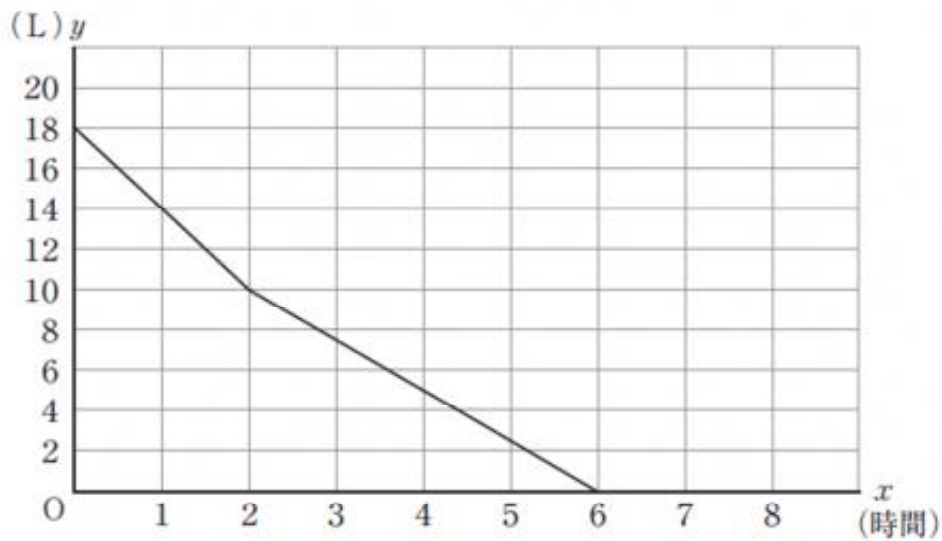
中学校数学

○無回答率が全国比 100 を上回り、無回答率が特に高い問題

7

- (3) ストープを6時間使用して、18 Lの灯油をちょうど使い切るように、「強」と「弱」の設定の組み合わせを考え、使用計画を立てます。そこで、結衣さんは、20ページのストーブの使用時間と灯油の残量のグラフをもとに、次のようなグラフをかきました。

結衣さんがかいたグラフ



結衣さんがかいたグラフのようすは、ストーブを次のように設定して何時間使用するかを表しています。

はじめに設定を「」にして 時間使用し、その後、設定を「」にしてから 時間使用する。

上の 、 には「強」、「弱」のどちらか1つを、、 には当てはまる数をそれぞれ書きなさい。

問題8 (3) 無回答率全国比 134.2% (音更町無回答率 5.1%、全国無回答率 3.8%)

「複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる」問題

V 質問紙の分析

今年度の「教育行政執行方針」や音更町の重点課題解決に直結する質問項目に絞った分析を行った。

『確かな学力の向上』から「分かる授業」「主体的課題解決」「話し合い活動」に関する項目を選択した。

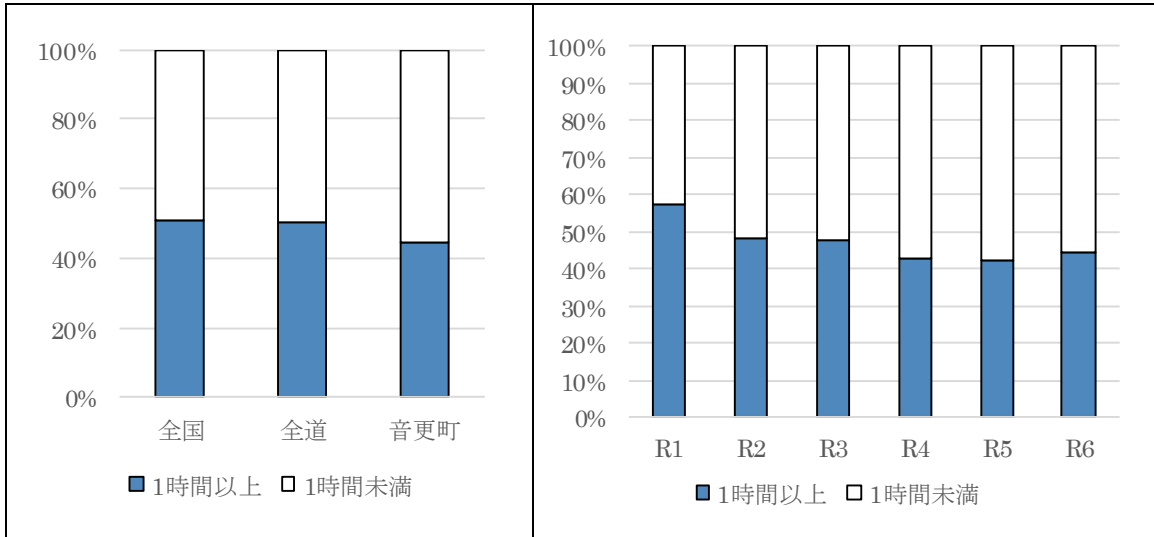
また、『豊かな心の育成』から「将来の夢や目標」「自尊心」「いじめ」に関する項目を選択した。

1. 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

<小学校>

【令和6年度】

【経年変化】

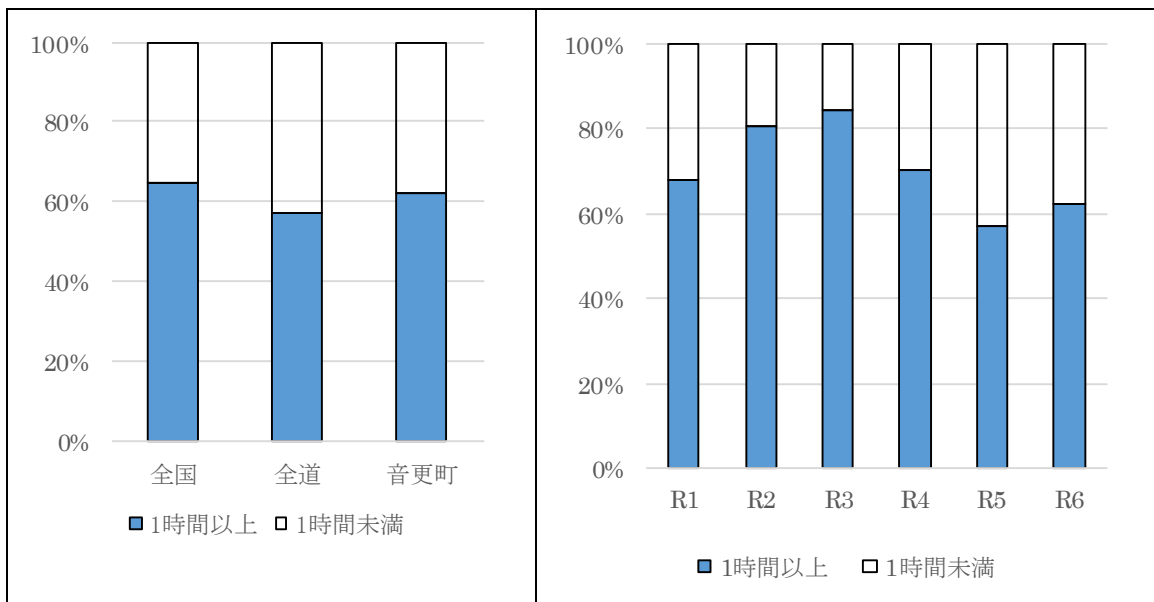


「1時間以上勉強している」という回答をした割合は、44.5%で半数を下回っている。経年比較では、「1時間以上勉強している」という回答は3年間で徐々に減ってきていたが、前回より2.2ポイント上がった。なお、音更町6年生児童の378人中30.2%（120人）が、勉強時間を「2時間以上、2時間より少ない」と回答している。

<中学校>

【令和6年度】

【経年変化】



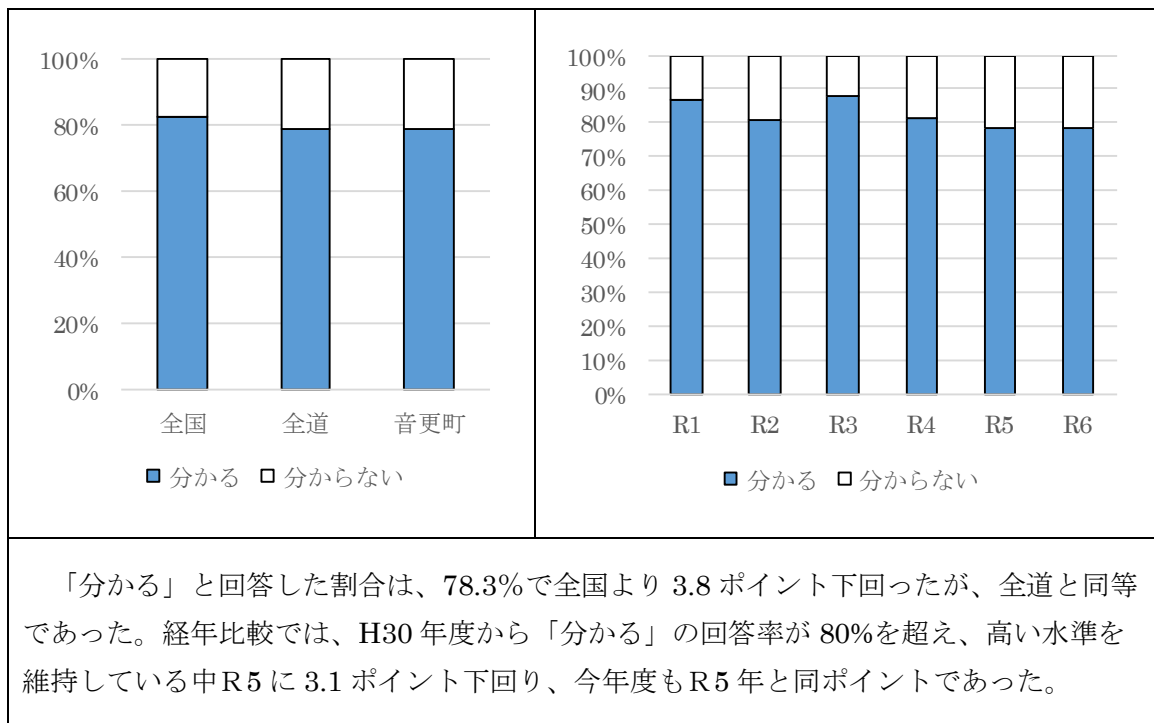
「1時間以上勉強をしている」という回答をした割合は、61.5%で全国より2.5ポイント下回っている。また、全体の27.2%が「2時間以上、3時間より少ない」と回答し、全道値を上回った。経年比較では、「1時間以上勉強をしている」と回答した割合が、50%を超える水準は維持しており、前年度より4.4ポイント上昇した。

2. 算数・数学の授業の内容は、よく分かりますか。

※グラフの「分かる」は、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計
 <小学校>

【令和6年度】

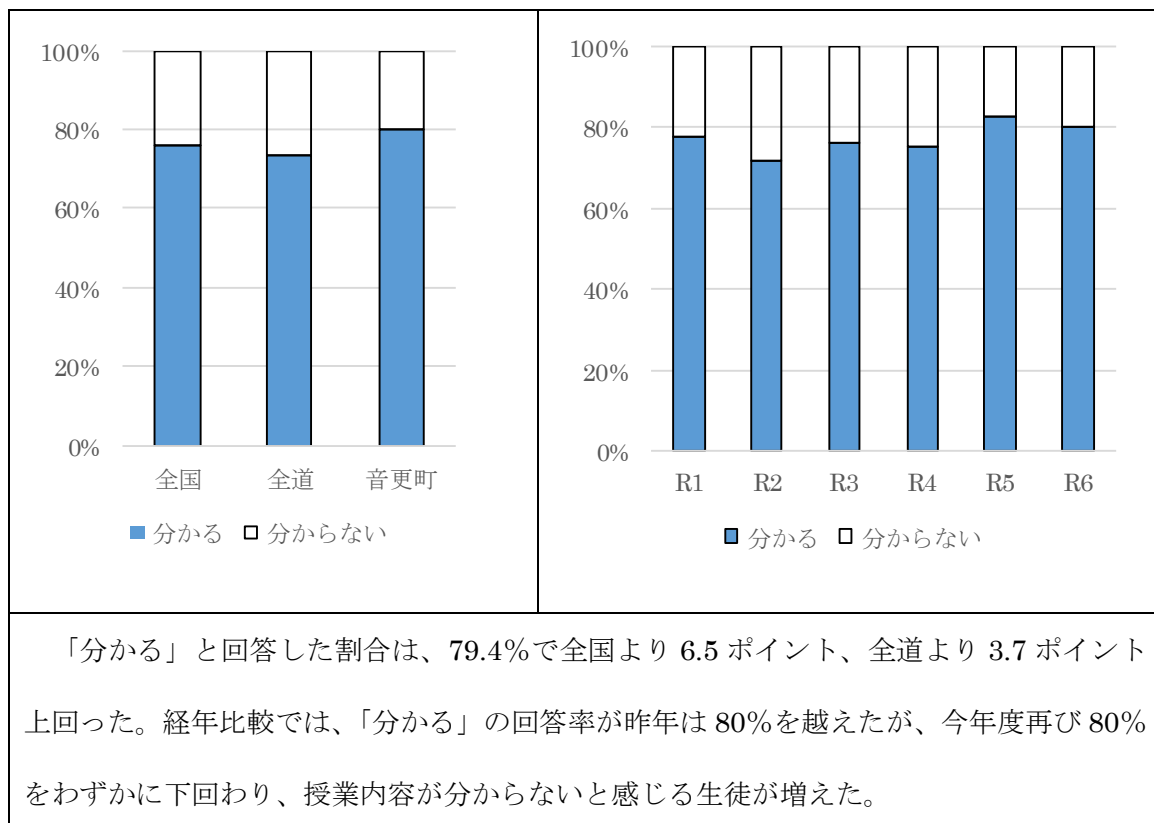
【経年変化】



<中学校>

【令和6年度】

【経年変化】



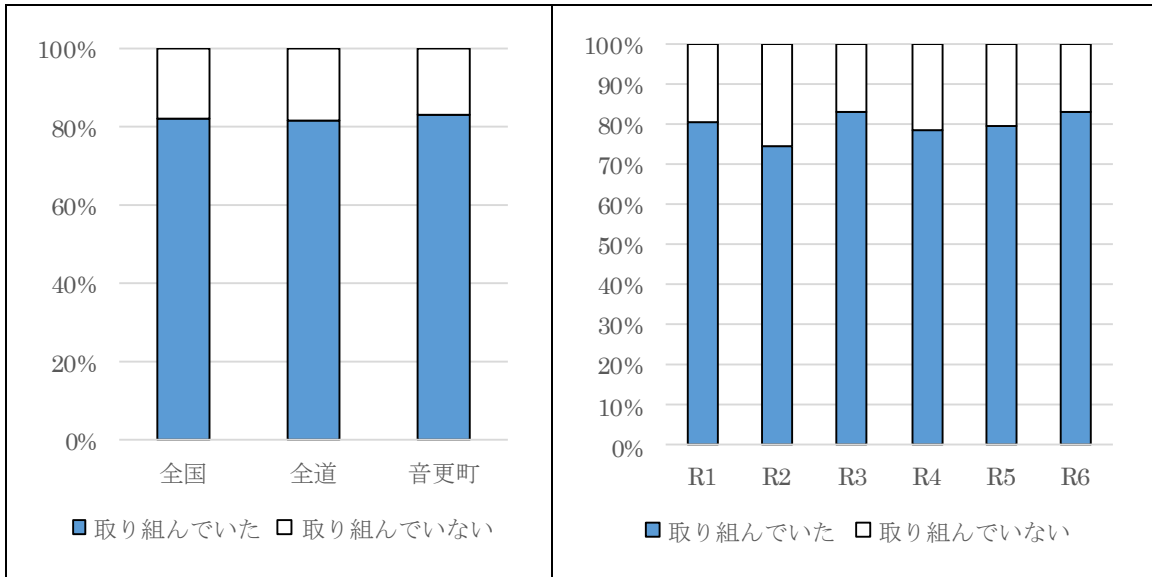
3. 昨年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。

※グラフの「取り組んでいた」は、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計

<小学校>

【令和6年度】

【経年変化】

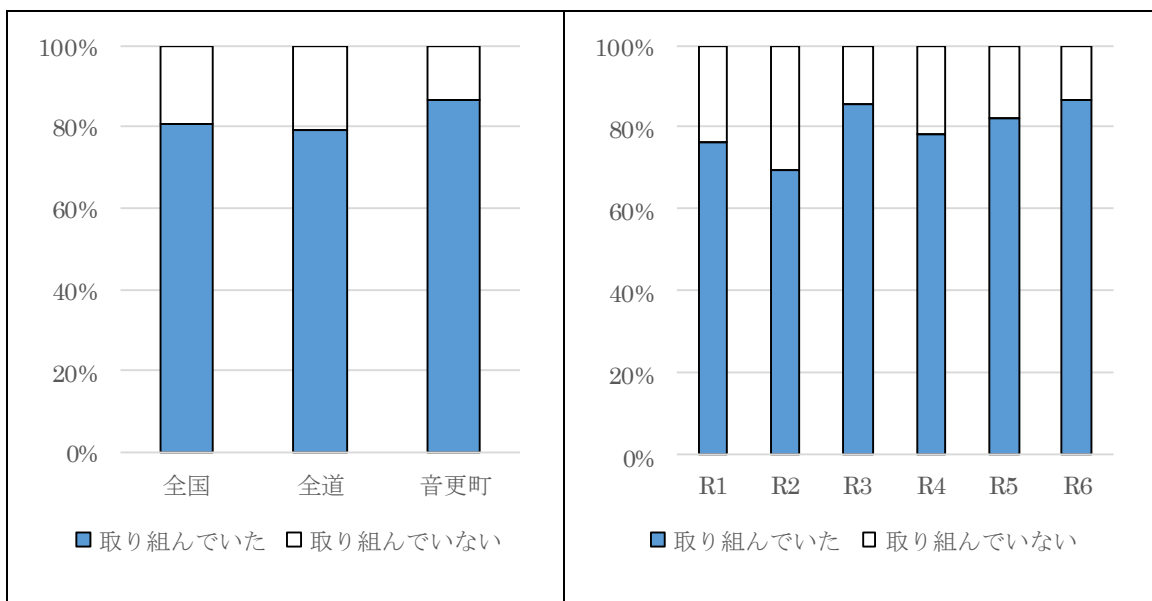


「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した割合は、82.8%で全国より0.9ポイント上回り、全道を1.4ポイント上回った。経年比較では、「取り組んでいた」の回答率が前年度より1.4ポイント上回っている。

<中学校>

【令和6年度】

【経年変化】



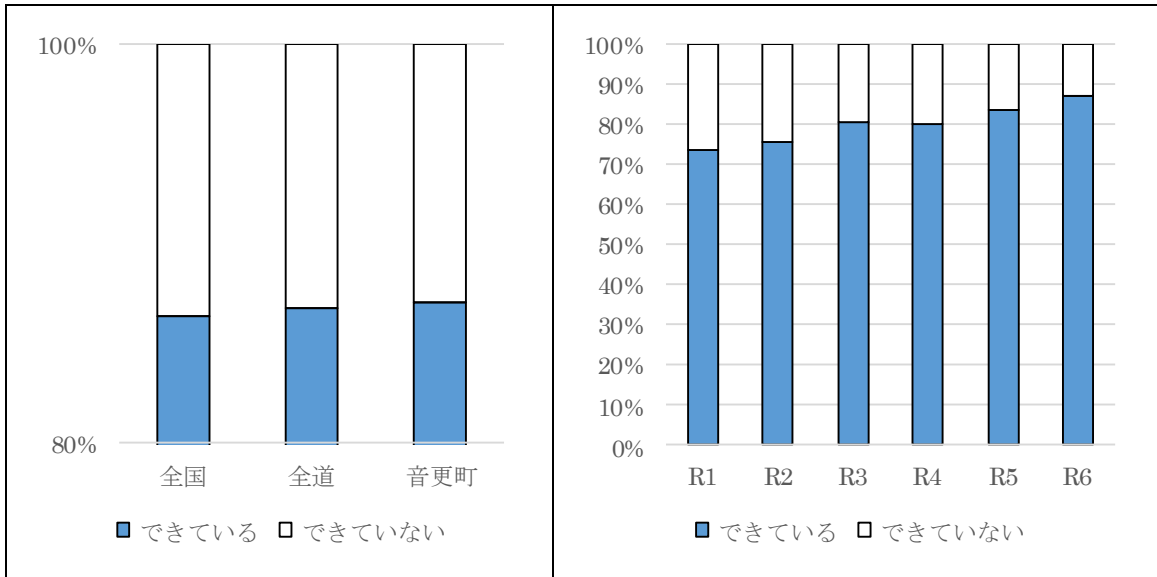
「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した割合は、86.1%で全国より、2.9ポイント、全道より7.4ポイント上回っている。経年比較では前回は4.1ポイント上回り、高い水準である。

4. 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

※グラフの「できている」は、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計
 <小学校>

【令和6年度】

【経年変化】

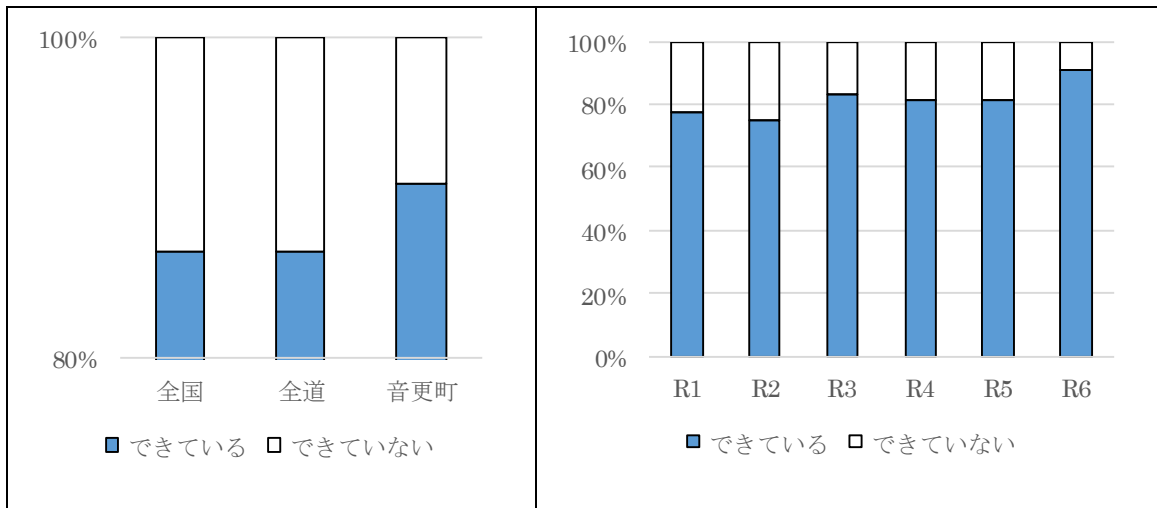


「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した割合は、87%で全国より 0.7 ポイント、全道より 0.3 ポイント上回った。経年比較では、R4 より徐々に増加しており、80%を超える水準を維持している。

<中学校>

【令和6年度】

【経年変化】



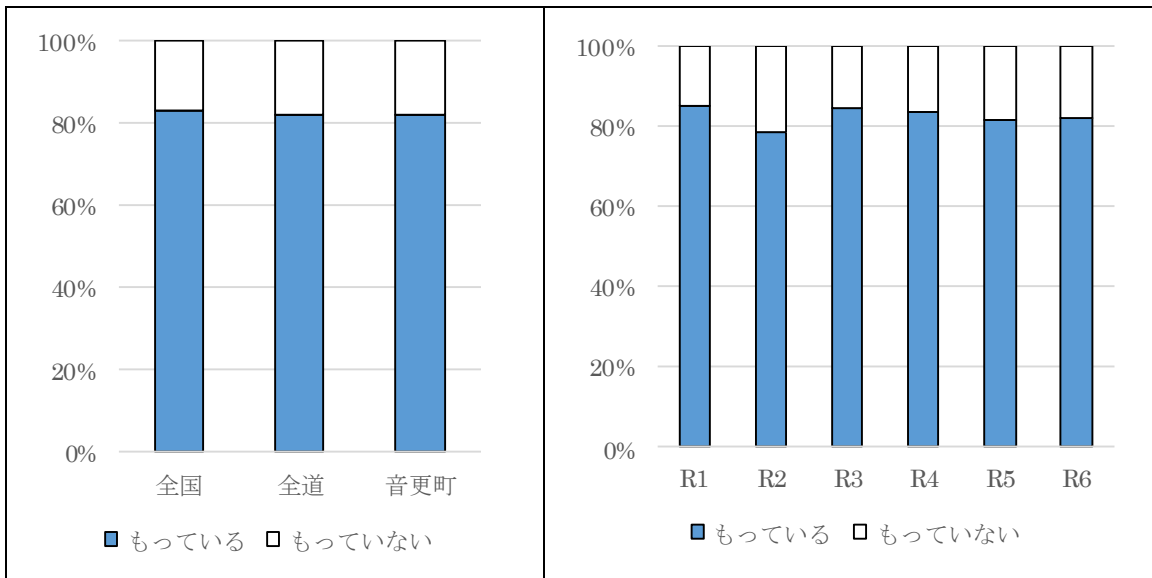
「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した割合は、90.4%で、全国を 4.3 ポイント、全道を 4.2 ポイント上回った。経年比較では、R3 年度から「できている」の回答率は 80% 台を維持している。今年度は前回は大幅に上回り 9.4 ポイント上昇した。

5. 将来の夢や目標をもっていますか。

※グラフの「もっている」は、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計
 <小学校>

【令和6年度】

【経年変化】

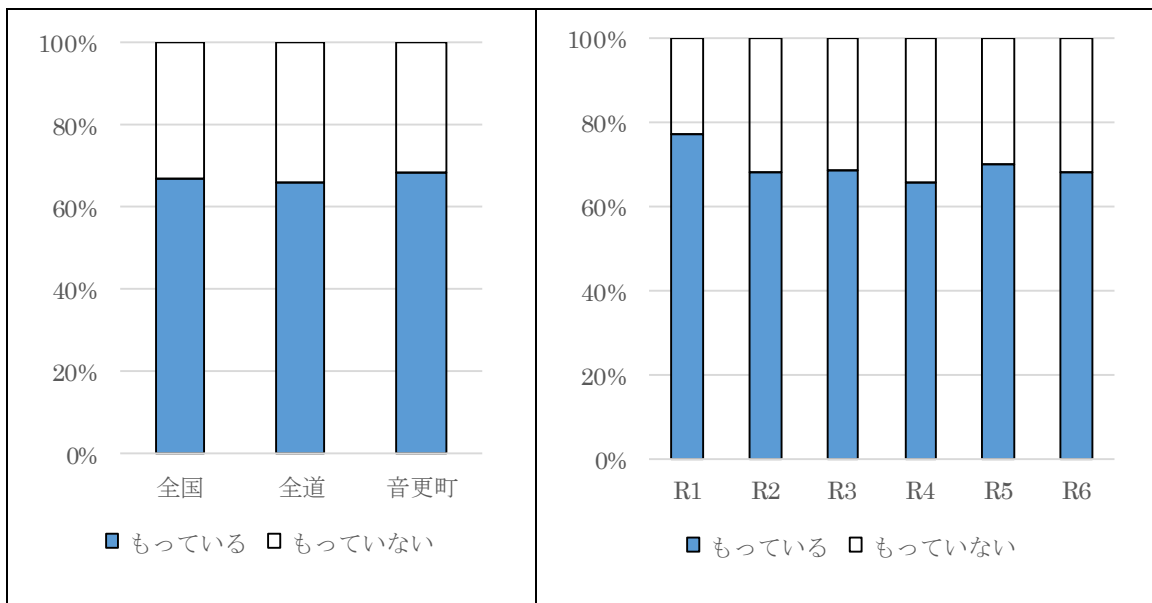


「将来の夢や目標をもっている」と回答した割合は、81.8%で全道より0.2ポイント上回った。経年比較では、「もっている」の回答率はR3年度からは80%台を維持している。

<中学校>

【令和6年度】

【経年変化】



「将来の夢や目標をもっている」と回答した割合は、67.2%で全国より0.9ポイント、全道より1.8ポイント上回った。経年比較では、前年度は一昨年より4ポイント上回ったが、今年度はまた2.6ポイント下回る結果となった。

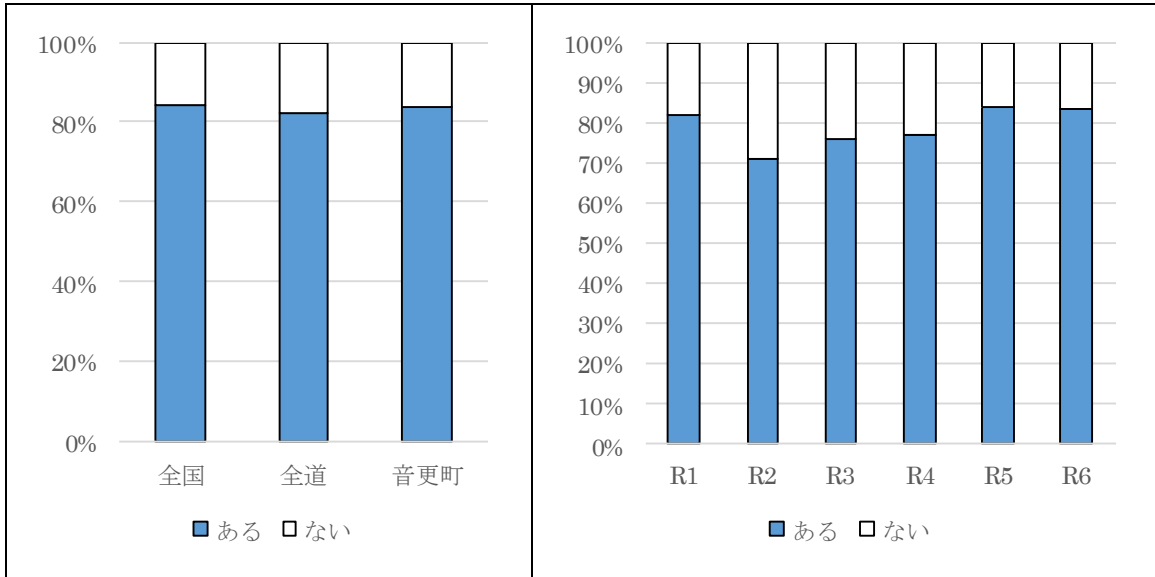
6. 自分には、よいところがあると思いますか。

※グラフの「ある」は、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計

<小学校>

【令和6年度】

【経年変化】

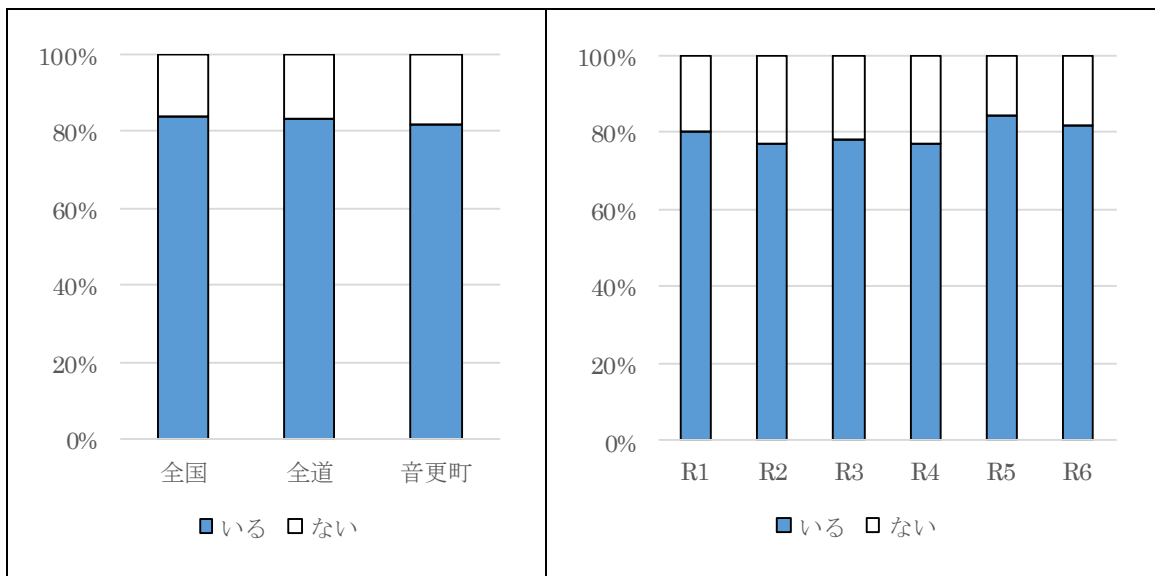


「自分には、よいところがある」と回答した割合は、83.3%で、全道より0.9ポイント上回っている。経年比較では、「ある」の回答率はR3より上昇傾向にあるが、昨年度よりわずか0.5ポイント下がった。

<中学校>

【令和6年度】

【経年変化】



「自分には、よいところがある」と回答した割合は、81.1%で、全道、全国をわずかに下回った。経年比較では、「ある」の回答率が、R1年を境に少しずつ下降しR5年に前年を7.3ポイント上回ったが、今年度は2.4ポイント下降している。

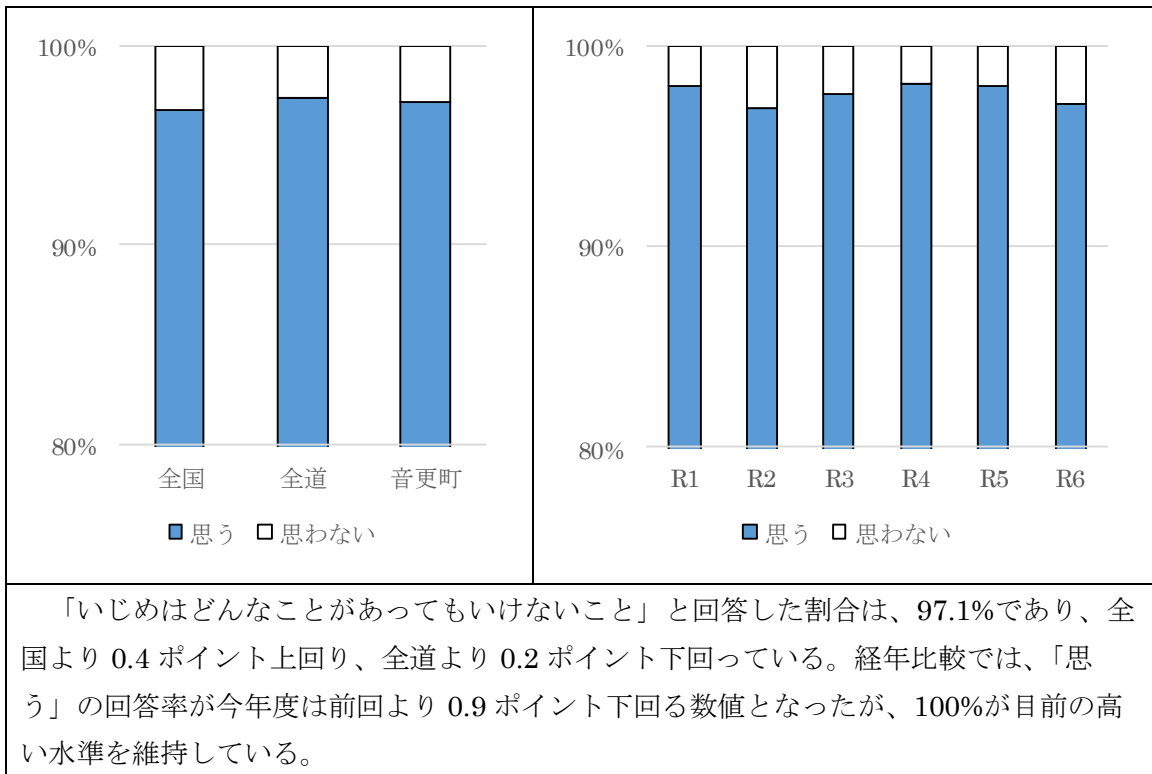
7. いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

※グラフの「思う」は、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計

<小学校>

【令和6年度】

【経年変化】



<中学校>

【令和6年度】

【経年変化】

